

カンショ周年安定良食味出荷体制の確立 —「JA なめがたの焼き芋戦略」を推進する普及活動—

鹿行農林事務所 行方地域農業改良普及センター

カンショの消費拡大のため、JA なめがたで取り組む「スーパー店舗内焼き芋販売」が全国的に拡大する中、周年で安定した良食味カンショの出荷が実需者から求められています。

そこで、普及センターでは「カンショの周年安定良食味出荷」を実現するため、関係機関と連携し、生産者へは良食味新品種の普及と品種の食味特性に合った適期出荷をする「3品種リレー出荷体系」を推進し、実需者へは「産地のこだわり」を伝え、産地の取組みに対する理解促進を図りました。

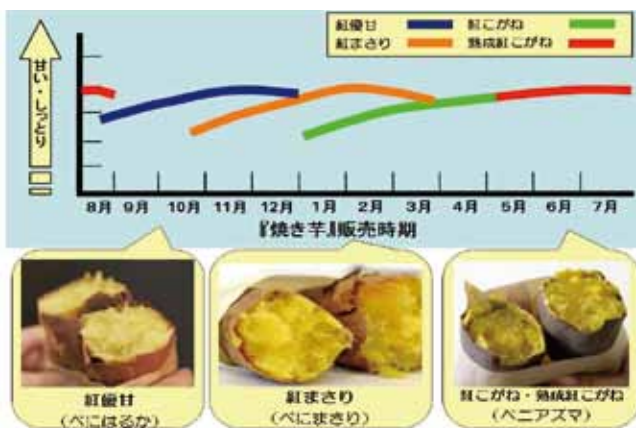
生産から販売にわたる普及活動を展開した結果、カンショ全体の栽培面積が107ha（H21→25）、販売金額が4億円（H21→25）と増加し、カンショ産地の発展及びカンショ経営の安定化を図ることができました。

新品種「紅優甘」（べにはるか）の導入・普及

新芋の出荷が始まる8～9月の焼き芋の食味評価を高めるため、収穫後の早い時期から食味の良い新品種「紅優甘」（品種：べにはるか）の導入を図りました。普及センターは関係機関と連携し、食味試験による出荷適期や実証ほ設置による栽培方法を検討し、現物検討会や栽培講習会等により生産者へ技術の普及を図りました。その結果、「紅優甘」は年内出荷向けの主力品種として導入されました。



生産者による「べにはるか」の食味評価



食味を重視した3品種リレー出荷体系

3品種リレー出荷体系の導入・確立

周年で安定した良食味の焼き芋を消費者へ提供するため、生産者へ品種毎の食味特性を最大限に活かした「3品種リレー出荷体系」を提案しました。さらに、品種毎の食味特性をデータに基づき説明し、生産者の理解を深めたことで、「3品種リレー出荷体系」が確立しました。また、品種毎に商品名をつけてブランド化を図りました。

【紅優甘(8～12月)(品種:べにはるか)⇒「紅まさり」(10～3月)(品種:べにまさり)⇒「紅こがね(1～4月)⇒「熟成紅こがね(5～8月)(品種:ベニアズマ)】

「産地のこだわり」を実需者・消費者へPR

取引先の市場関係者、スーパーのバイヤー、店長等に対し、焼き芋販売戦略に基づく周年安定良食味出荷の取組みや「産地のこだわり」等をJAと連携し、直接PRし販路拡大に繋げています。さらに、焼き芋試食による消費宣伝や取引企業との企画による農業体験イベント等、消費者に対する積極的なPRによりカンショの消費拡大を推進しています。



産地の取組みを実需者に直接PR